Keep Innovating.
KYOTO SANGYO UNIVERSITY

京都産業大学　教職課程
News Letter　第２号

目　次

１．教職課程ニュースレター第２号に寄せて
２．教職フォーラムのご案内
３．運営委員便り
４．卒業生教員の声
５．教員採用試験合格状況
６．教育実習生の声
７．研究紀要投稿のご案内
８．情報提供のお願い

＜教職課程ニュースレター第２号に寄せて＞

教職課程教育センター長
西川　信廣

卒業生の皆様におかれましては、益々ご活躍のことと拝察申し上げます。

この度、京都産業大学教職課程ニュースレター第２号を刊行する事ができました。

昨年の創刊号を契機に卒業生の皆様との紙面やメールなどでの交流も進みだしております。これからも紙面の充実に努め、卒業生の皆様と在学生、教職員の交流の輪が広がるように努力して参ります。

ご承知の通り、教員養成制度のみならず学校教育全般にわたる広範な改革が進められようとしています。平成 26 年７月３日に出された教育再生実行会議の提言では、９年制の小中一貫教育学校を法制化し、6-3 制の見直し（弾力化）も提言されています。京都市では既に施設一体型小中一貫教育校が４校開設され（大原学院、花背小中学校、東山開睛館、凌風学園）、他にも 5-4 制とも言える御池中学校区や東山泉学園などがあり、6-3 制の弾力化は現実のものとなっています。これらは 15 歳の学力に責任を持つために、義務教育関係者や教育委員会が地域の課題と特性を見定め、それにあった取り組みを進めた結果の多様性であると理解されています。卒業生の皆様が勤務される地域ではどのような取り組みが進みつつあるでしょうか。ぜひ、在学生にお話しいただく機会を持ちたいと考えております。並行して教員免許制度の改革も検討されており、義務教育学校教員免許状（仮称）が創設される可能性が高くなっています。本学でも佛教大学との併修という形式で、中学校１種免許状を取得していることを条件に４年生卒業時点で小学校１種免許状を取得できるようになっています。これからも小・中・高の各学校へ多くの優秀な教員を送り出すことを目標に、教職課程教育センターが全学のリード役を担う所存であります。今後とも卒業生の皆様の多大なご支援をお願いしまして、ご挨拶とさせて頂きます。

＜教職フォーラムのご案内＞

教職課程教育センターでは、教育分野でご活躍されている卒業生の皆様と教職をめざしている在学生との交流会として「教職フォーラム」を開催いたします。

教育現場で起こっている問題を取り上げながら、今後の学校教育の在り方について考えるプログラムとなっていますので、ぜひご参加ください。

詳細は、本学 HP にてご確認ください。

URL：http://www.kyoto-su.ac.jp/

◆日時：平成 26 年 11 月８日（土）13：30～16：00
◆場所：本学５号館３階 5303 教室
◆内容：①基調講演　―いじめ問題を考える―
講師　桶谷　守　京都教育大学教職センター教授
大津市いじめ問題第三者調査委員会委員
②本学卒業の現職教員による実践報告
③卒業生、在学生によるディスカッション

＜運営委員便り＞

理学部　数理科学科
渡辺　達也　准教授

卒業生の皆様におかれましては、益々ご健勝にてご活躍のことと存じます。

「ＩＣＴ（情報通信技術）活用教育」という言葉が、最近よく聞かれるようになりました。

本学でもＩＣＴに関するシンポジウムがありました。初等教育現場でのＩＣＴ器具の普及率や使用率についての話があり、現状認識が深まりました。また、協力企業の展示では、タブレットや電子教材だけでなく、大型タッチパネルや学生情報管理システムなども紹介されました。

ここ数年での技術進歩は凄まじいものがあって、私たちを取り巻く環境は劇的に変化しました。先日参加した国際研究集会では、研究発表はプロジェクタ使用のみという制約がありました。１０数年前、大学院生の時に研究発表した際には、手書きのＯＨＰフィルムを使った記憶があります。今ではＰＰもしくはＰＤＦのスライドでないと、発表すら出来なくなりました。

もちろん、ＰＣ使用がいつでも優れているとは限りません。ＩＣＴ活用教育は学習への興味付けや体験型学習に非常に有効な方法です。しかし、数学では自分１人で解いた問題の量が理解度･達成度に繋がるので、使い方次第では､逆効果になる可能性もあります。

「教師は常に学び続けなければならない」と言われます。そして技術進歩と共に、旧来の講義型とは違うスタイルの授業を取り入れていく必要性が高まっています。本学のスローガンは「Keep innovating」ですので、卒業生の皆様もＩＣＴを活用して、より良い授業作りに挑戦して欲しいと思います。

末筆ながら、益々のご多幸をお祈り申し上げます。

法学部　法政策学科
芦立　秀朗　准教授

平素より本学の教職課程に対してご支援とご協力を賜りましてありがとうございます。法学部の芦立（あしたて）です。行政学（政治学）専攻という関係で、「公民科教育法」を担当して10年目になろうとしています。

昨年度より「教職実践演習」も教えています。教職課程を担当していると他では経験できないような出会いに恵まれることが多いと感じます。

数期に渡り教職課程教育センター運営委員を務めていたということもあり、昨年度は副委員長を拝命しました。センター長の代理として全国私立大学教職課程研究連絡協議会（全私教協）等にも参加する機会を与えていただきました。様々な大学の教職課程関係者と意見交換をすることができ、良い勉強になりました。

中学校や高等学校の先生方にお会いすることが多いのもありがたいことです。毎年、教育実習の巡回指導に伺っています。指導に工夫されている先生方のお話は、私自身の授業改善にも役立っていると考えます。教員免許状更新講習も担当しております。法学・政治学の最先端を知ろうとする意欲的な先生方と接することは良い刺激です。

昨年度の教職フォーラムでは現職の教諭として活躍する卒業生と再会することができました。私の授業のことを覚えてくれていて、大きく成長した彼の姿に感激しました。

ご縁や絆は貴重なものです。卒業生の皆様におかれましては、ご多用は承知していますが、お近くにお越しの際には、教職課程教育センターに気軽に顔を出していただきたく思います。

＜卒業生教員の声＞

東福岡高等学校　理科主任
長野　範人　先生

平成８年に理学部物理学科を卒業してから、18 年間、福岡県の東福岡高等学校（私立）で教諭として勤務しています。現在は、理科主任で物理を担当しています。

教師とは「人を育てる仕事」ですから、すべての生徒に通用する画一的な指導法など存在しません。そのため、私は生徒に寄り添い、「目の前の生徒にとって最良の指導法は何なのか」を常に考えて指導に当たることを大切にしています。様々な事務作業や部活動の指導、突然発生する問題への対応もあり、教師という職業は決して楽な仕事ではありません。しかし、私は教師とは、自分の好きな教科を通して、子ども達の貴重な青春時代を共に歩むことができる最高の職業だと感じています。気づけば 18 年教師を続けていますが、今でも生徒が成長した姿を見ると、それまでの苦労など吹き飛んでしまいます。

教師にとって教科力が大切なことは言うまでもありませんが、それと同じくらい、大学時代に全力で遊んだ経験や部活動やアルバイトなど、様々な経験から自身を磨くことも大切です。人間的な魅力がなければ、生徒の心をつかむことは容易ではありません。

京産大の学生の強みは、この人間力の高さだと私は感じています。私自身も京産大魂を忘れずに更に魅力的な教師になれるよう日々精進していきます。在学生の皆さんが、その強みを生かして教師という尊い職業に就かれることを願っています。

共に頑張りましょう。

京都府立東舞鶴高等学校
宮脇　祥平　先生

平成 26 年３月に理学部数理科学科を卒業し、４月から京都府立東舞鶴高等学校の教諭になりました。分掌は生徒指導部で、教科は数学です。

京都産業大学では、「教師になりたい」という夢を実現させるために、教職関係の講義を中心に受講し、様々な教職に関わる知識を身に着けることができました。また、専門科目の授業や研究授業で学んだことも、実際に高校で授業をしていく上でとても参考になっています。現在でも、それらの知識や経験をもとに教員生活を送っています。

どのようにしたら生徒が集中して数学の授業に臨んでくれるかを試行錯誤して日々、教材研究をしています。部活動はバスケットボール部とボランティア部を兼任しており、バスケットボール部では、毎日体育館で部員の様子やチームの雰囲気を見て、生徒たちの成長を日々感じております。また、ボランティア部では、毎週一回校外の掃除をして回る他に、地域のイベントのボランティアとして参加しています。

部活動と分掌の業務、また教材研究などで一息つく間もない忙しさですが、授業や部活、休み時間などに生徒と関わることで、その忙しさを越える楽しさも実感できます。そんな中で、生徒の成長だけでなく、自分の成長も感じていくことができます。

教員を目指している皆さん、教員はすごくやりがいのある職業です。

目標に向かって頑張ってください。

＜教員採用試験合格状況＞

○新規教員採用状況

年度	2011（平成23）	2012（平成24）	2013（平成25）
公立学校正規教員数 （）は既卒合格者含む	8 未調査	9 （50）	6 （50）
公立学校受験者数	65	63	54
公立学校期限付き教員	27	17	15
私立学校教員（常勤）	5	5	2
合計	—	72	67

※科目等履修生・大学院生を含む

＜教育実習生の声＞

文化学部国際文化学科
岩谷　咲李

私は、６月から母校で英語の教育実習をさせていただきました。

母校は全校 17 名の小規模校で１クラス多くても６名しかいません。教壇に立って授業をできるかどうか不安でいっぱいで教育実習を迎えました。

実践授業が始まると、生徒達は素直な反応を示してくれ、分からないときは「分からない」と表情・言葉で示してくれました。その素直な反応が刺激となり、全員が「分かった！」「答えられた！」という達成感を味わえる授業を目指しました。実習でとても感じたのは、生徒が分かる授業をするためには、一人ひとりのことをよく理解し、良い関係を築くことの大切さです。

日ごろからコミュニケーションがとれていると、しっかり話も聞いてくれ、授業時もたくさん手を挙げて参加してくれました。また、小さな変化にも気づくことができ、生徒の得意不得意や何に興味があるのかがわかっていることで、生徒が躓いているときにも生徒の興味、理解に合わせながら工夫したヒントが出せました。生徒理解ができてくるにつれ生徒に寄り添った指導ができていると実感する機会がたくさんありました。実際に生徒を前にすることで、生徒と向き合うことの大切さを感じ、机上の勉強だけでは足りないということを実感できました。この経験を生かし、教師になるという目標に向かって今後も頑張っていきます。

＜研究紀要投稿のご案内＞

教職課程教育センターでは、毎年４月『京都産業大学教職研究紀要』を刊行しております。

本学をご卒業された現職教員または教育関係にお勤めの皆様にもご投稿いただくことが可能です。皆様からの積極的なご投稿をお待ちしております。

＜投稿要領＞

１．投稿種別　　実録記録
２．原稿量　　400 字詰め原稿用紙 50 枚以内
３．掲載内容
(1)原則、教職課程における教職及び教科に関するもの
(2)未発表のもの
４．投稿方法
(1)原稿は、教職課程教育センターに提出する
(2)原則、ワードで作成し、ファイルを保存して記録媒体を提出すること。ただし、レイアウトは自由
(3)邦文及び英文のタイトルと要旨を添付する
(4)提出期限は、当該年度の 11 月末とする

※研究紀要のバックナンバーについては、本学の電子公開書庫「学術リポジトリ」にて閲覧可能です。
URL:http://ksurep.kyoto-su.ac.jp/dspace/

＜情報提供のお願い＞

教職課程教育センターでは、教育分野でご活躍されている卒業生の皆様と交流を深め、ネットワークの構築をめざしています。

この機会に、卒業生の皆様から教職に関する各種情報や、ご自身の近況報告などの情報をご提供いただきたいと存じます。また、教職をめざしている在学生との交流や免許状更新講習のご案内なども行っていきたいと考えております。情報ご提供の際は、下記アドレス宛に、①氏名（ふりがな）、②卒業年度、③卒業学部、④勤務先、⑤担当教科をご記入のうえ、ご連絡いただければ幸いです。

また、お知り合いの方で本学を卒業後、教育分野でご活躍の方がいらっしゃいましたら、併せて、ご連絡いただきますよう、お願いいたします。

＜発行・お問い合わせ先＞

＜発行＞
News　Letter　第２号
発 行 日：平成 26（2014）年 9 月 26 日
編集発行：京都産業大学　教職課程教育センター

＜お問い合わせ先＞
京都産業大学　教職課程教育センター
〒603-8555　京都市北区上賀茂本山
TEL:075-705-1479　//　FAX:075-705-1448
E-mail：kyoushoku-center@star.kyoto-su.ac.jp